

飛翔 Hisho



《ビッグバン～遥かなる宇宙の大爆発～》森 陽香



Love Devotion Harmony Innovation
2025.Summer
VOL.44

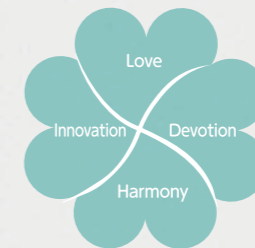


Hear the bird sing.



心の声に、耳を澄まそう

あさかホスピタルグループのクレド



困っているだけ隣の
だれかが自然に手を差し伸べているような
思いやりにあふれたゴールをめざす
これは、わたしたちの物語です

基本理念：Fundamental Philosophy

愛情	Love	和	Harmony
温かい思いやりを持って、態度・言葉に配慮して、忍耐強く相手の心に耳を傾けること。人の心の痛みを理解できる人間になるよう努力していく。		職員同士のチームワーク、楽しい職場づくりを考えよう。職務を通して人間性を高め、協調性を保ち、患者さんに良い医療で奉仕する。	
奉仕	Devotion	進歩	Innovation
家庭、社会、職場の生活、全てに奉仕の心を忘れないこと。相手によって自分が活かされていることを感謝し、相手から感謝されることを期待してはならない。		常に創意工夫を心掛け、仕事を通じて自己の人間性の進歩を実現する。自ら勇気と向上心をもって、積極的に良い職務を求めていく。	

Hospital Principle

あさかホスピタルは基本理念のもと、心と脳の専門機関としてすべての人の心と人格を尊び、質の高い心のこもった医療・保健・福祉を提供します。

社会医療法人あさかホスピタル

- あさかホスピタル**
〒963-0198 郡山市安積町笹川字経坦45 TEL.024-945-1701(代) FAX.024-945-1735
- 地域総合サポートセンターコムニタ(あさかホスピタル内)
○ウエル居宅介護支援事業所
○ウエル訪問看護ステーション ○ウエル訪問看護ステーションサテライトみはる
○安積地域包括支援センター ○福祉まるごと相談窓口
〒963-0198 郡山市安積町笹川字経坦45
TEL.024-946-0581 FAX.024-946-0591(ウエル居宅介護支援事業所)
TEL.024-946-0582 FAX.024-946-0591(ウエル訪問看護ステーション)
TEL.024-946-9088 FAX.024-946-9089(安積地域包括支援センター)
TEL.024-945-2778 FAX.024-946-9089(福祉まるごと相談窓口)
- 介護老人保健施設 啓寿園
〒963-0102 郡山市安積町笹川字経坦31 TEL.024-946-6145(代) FAX.024-937-3156
- あさかこころクリニック
〒963-8024 郡山市朝日3丁目5-16 イルチエントロあさかビル 3F
TEL.024-927-5860 FAX.024-927-5861

社会福祉法人 安積福祉会

- 特別養護老人ホーム カーサ・ミツレ
〒963-0102 福島県郡山市安積町笹川字西宿77 TEL.024-946-2818 FAX.024-946-8170
- 特別養護老人ホーム しらさわ有寿園
〒969-1205 福島県本宮市和田字戸ノ内158番地3 TEL.0243-64-2121 FAX.0243-64-2788
- 特別養護老人ホーム カーサ・コリーナ
〒969-1205 福島県本宮市和田字戸ノ内158番地3 TEL.0243-24-5777 FAX.0243-64-2788
- 介護付有料老人ホーム カーサ・ヴェッキオ
〒963-0102 郡山市安積町笹川字荒池下3番41 TEL.024-937-2227 FAX.024-937-2228
- 本宮市白沢地域包括支援センター
〒969-1205 福島県本宮市和田字戸ノ内321 TEL.0243-24-5131 FAX.0243-24-5254

社会福祉法人 安積愛育園

- 総合児童発達支援センター アルバ
○入所支援事業所 アルバ ○通所支援事業所 チエロ
○相談支援事業所 エッコ
〒963-0102 郡山市安積町笹川字経坦52 TEL.024-945-0369(代) FAX.024-945-0379
チエロ TEL.024-953-4436 エッコ TEL.024-937-2195
- 放課後等デイサービス 安積愛育園 パローネ
〒963-8835 郡山市小原田3-11-11 TEL.024-944-5536 FAX.024-973-8250
- こどものひろば プリモ
〒969-3133 耶麻郡猪苗代町大字千代田字前田甲311-1 TEL.0242-85-7320 FAX.0242-85-7321

- 障がい者支援施設 あさかあすなろ荘
グループホーム カルモ
〒963-0103 郡山市安積町大森町70-1 TEL.024-947-7575 FAX.024-947-7576
- コミュニティサポートセンター アルベロベッコ
通所事業所 ピッコラ グループホーム モンティ
郡山市障がい者地域生活支援拠点事業
〒963-0102 福島県郡山市安積町笹川字関谷田 3-6
TEL.024-953-5801(ピッコラ)/024-953-5422(モンティ)/070-1471-4237(拠点事業直通)
FAX.024-953-5802(共通)
- 地域生活サポートセンター パッソ
〒963-0102 郡山市安積町笹川字四角田54-3 TEL.024-937-0201 FAX.024-947-5115
- 多機能支援センター ビーボ
〒969-1205 本宮市和田字戸ノ内321 TEL.0243-64-2151 FAX.0243-64-2152
- はじまりの美術館
〒969-3122 耶麻郡猪苗代町字新町4873 TEL/FAX.0242-62-3454
- キッズスタジオPORTA
〒963-0117 郡山市安積町荒井3丁目348番地 TEL.080-4292-6287

提携機関

- 有限会社アサカサービスセンター
〒963-0102 郡山市安積町笹川字経坦45 TEL.024-945-2713 FAX.024-945-8883
- イルチエントロあさかビル
○あさかストレスケアセンター EAP相談室Lavoro カウンセリングルームComfort
〒963-8024 郡山市朝日3-5-16-2F TEL.024-927-5081 FAX.024-927-5082
E-mail.info@asaka.cc TEL.024-927-5210(Comfort)
- Kふあーむ
〒969-1205 本宮市和田字戸ノ内158-1 TEL/FAX.0243-44-1411
○リストラントレンドピアノコ
〒969-1205 本宮市和田字戸ノ内158-8 TEL.0243-44-1020 FAX.0243-24-8559
- ふあーむ デル・ソーレ(太陽光発電)

ビッグバン
～遥かなる宇宙の大爆発～
作家紹介
森 陽香
MORI Haruka
1988年福島県出身・在住



森は脳性麻痺のため手足にこわばりがあり、ふだんは車椅子で過ごしているが、絵を描く時は主に右足を使う。本作は、以前から宇宙に関心があった森が、2020年ごろから描きはじめた宇宙や銀河の連作の一つである。ブラシや霧吹き、竹串、たんぼ、粉ふるいなど、筆以外の様々な道具も使った意欲作だ。

心温まる社会とは

社会医療法人あさかホスピタル 理事長 佐々木 啓

誰もが、地域社会はすべての人にとって安心して健やかに暮らすことのできる場所であって欲しいと考えます。社会的包摂や共生社会という言葉は頻繁に耳にしますが、本当に心温まる社会とはどのような社会なのでしょう。

右の写真はWHOで紹介されているアフリカ、ジンバブエの「Friendship Bench」です。6月の精神神経学会総会のポジティブサイコロジイに関するシンポジウムで紹介されました。現地の言葉では「知恵を分かち合うベンチ」という意味だそうで、地域に永く住む医療専門職ではない60歳前後の年配の女性が、地域の精神保健部門で雇用され、地域の人々のメンタルヘルスを含めた様々な相談を受ける仕組みです。ジンバブエでは年配の方々は地域の「守護者」として敬意を払われ、医療や公的なサービスが不十分で、対応できないギャップ(アンメットニーズ)を埋める重要な役割を果たしているそうです。

日本では若者のメンタルヘルスへの早期介入のためのワンストップ相談センター「SODA: Support with One-stop care on Demand for Adolescents and young adults」という取り組みがあります。本年4月に当院院長に就任した水野雅文先生が東邦大学の教授時代に厚生協会東京足立病院の協力の下に始められ、現根本隆洋教授の教室で活動が展開されています。多職種専門チームによる早期支援プログラムを提供し、様々な地域の資源と連携するワンストップネットワークを構築するというものです。現在は足立区の事業として足立病院が委託を受ける形となり、さらに埼玉県川口市では大きなショッピングセンター内に市がSODAを設置するなど、行政がその重要性を理解し推進するところが徐々に増えているそうです。

福島県では10代の女性の自殺が増えており、自殺率は全国でワースト3位になっています。若者のメンタルヘルスの問題は国としても重要課題です。日本では15歳から39歳の死因の第一位は自殺です。自殺の9割には何らかの精神疾患が存在すると言われています。その好発年齢は14、15歳で、本人も家族もそれが精神疾患であると認識できない場合も多いのです。貴重な若者の命を救う、或いは精神疾患への早期介入で先々の社会生活にできる限り支障を残さなくするSODAは大変重要な取り組みだと思っています。

「no one left behind」、誰も取り残さない社会の実現は、自殺予防も含めこの健康無くしては始まりません。地域には従来の行政、医療、介護、福祉、教育、家庭の枠では対応しきれないアンメットニーズが数多く存在します。「心温まる社会」と考えた時「Friendship Bench」が頭に浮かびました。そして「心の声に、耳を澄ませよう。困った人の隣で誰かがそっと手を差し伸べているような思いやりに溢れた「ゴールをめざす」という私どものクレドと重なりました。地域に暮らす人生の先輩と知恵を分かち合うような、人々との繋がりがこそがコミュニティの原点である気がします。

これからも、心温まる地域社会の実現に向けて活動を続けていきたいと考えます。

2.5.2 Friendship Bench Zimbabwe



講演テーマ

「社会と精神医療：地域とともに、心の声に耳を澄ます」



あさかホスピタルの院長就任にあたり、講演の機会をいただき感謝申し上げます。

心の病のとりえ方や治療の考え方は、脳科学の進歩や社会の変化とともに、移り変わっています。多様性が尊重される時代になり、以前は病気や治療の対象とされた行動が、今では個性として受け入れられることもあります。社会に合わせて標準的な行動をとれるようにすることが治療なのか、個性を伸ばして周囲が受け入れる努力が求められているのか、悩ましい場面も増えてきました。

一人ひとりがその人らしく生きて暮らしていける地域をめざして、当事者や家族の方の声を聞きながら、精神医療にできることを考え実現していきたいと思えます。



だれ一人取り残さない
安心と信頼の医療環境を築く

社会医療法人あさかホスピタル 院長

水野 雅文



この度、社会医療法人あさかホスピタル院長に就任しました水野雅文と申します。どうぞよろしくお願いたします。

あさかホスピタルは、地域に根ざした精神科医療の質向上と全人的ケアの実現を目指し、日々二歩一歩の努力を重ねて参りました。私も、心の不調をいち早く察知し、迅速かつ適切な支援や治療を行うため、絶えず新たな診断技術や治療法を学び、患者さん一人ひとりの症状や生活背景に合わせた治療プログラムを提供したいと考えています。

今後とも在宅医療や訪問診療の充実に努め、通院が困難な方々にも安心して診療を受けていただける体制を整備。また、デジタルヘルス技術の活用やオンライン診療の推進により、遠隔地や真冬の来院困難な時期にも高度な医療サービスを提供できる環境を実現していきます。

看護師、心理師、薬剤師、作業療法士、精神保健福祉士、事務職など多職種が各科の医師とともに密に連携し、包括的なケアを通じて、精神障害や発達特性をお持ちの方々を含むすべての患者さんが自分らしく生きるための支援を行ってまいります。地域との絆を大切に、だれ一人取り残さない安心と信頼の医療環境を築くことが、私たちの使命であると考えています。すべての人が自分らしく生きられる共生社会の実現に向けて、アトやスポーツなどを通じた自己表現の機会も盛り上げて、地域との交流もさらに盛んにしたいと願っています。

これからも、こうした信念を胸に、温かく開かれた医療の実現に邁進してまいります。皆さま方のご指導、お力添えをよろしくお願いいたします。

プロフィール

1986年3月慶應義塾大学医学部卒業、1992年3月同大学院医学研究科修了、博士(医学) 1993年9月よりイタリア政府給費留学生としてパドヴァ大学心理学部へ留学、パドヴァ大学心理学部心理学科 visiting professor、帰国後、慶應義塾大学精神神経科助手、専任講師、助教授を経て2006年4月東邦大学医学部精神神経学講座主任教授、2021年4月東京都立松沢病院院長、2025年4月社会医療法人あさかホスピタル院長就任。

一般社団法人日本社会精神医学会理事長、公益社団法人日本精神神経学会理事、日本森田療法学会理事長など学会役職多数。

主な編著書

心のケアの羅針盤(ラグーナ出版)、リカバリーのためのワークブック(中央法規出版)、心の病、初めが肝心(朝日新聞出版)、心の病気になる子どもたち 精神疾患の予防と回復(朝日新聞出版)、早期発見で乗り越える統合失調症の本(大和出版)、10代から知っておきたい統合失調症(保育社)、標準精神医学(医学書院)、今日の治療指針(医学書院)ほか

お知らせ

第122回 日本精神神経学会学術総会

開催日:2026年6月18日(木)~20日(土) 会場:パシフィコ横浜ノース

大会テーマ:「社会の中の精神医療、社会を変える精神医学」
“Psychiatry in Society, Psychiatry for Society”

会長:水野 雅文

副会長:平川 淳一 三木 和平 藤井 千代 根本 隆洋 辻野 尚久

事務局:社会医療法人あさかホスピタル(事務局長:喜田 恒)

本総会にて、会長を務めさせていただくこととなりました。精神医学がより広く社会に理解され、多様な声とともに未来をつくっていく場となるよう、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



統合型地域精神科治療プログラム(OTP)に基づく、包括的な医療・支援体制を目指して

地域支援包括チーム リーダー 地域連携室 シニアマネージャー 安西 里実



当院では2002年より取り組んだ「まさかわプロジェクト」をきっかけにOTP: Optimal Treatment Project(統合型地域精神科治療プログラム)に基づき、多職種チームによる包括的な治療・支援を実践してきました。

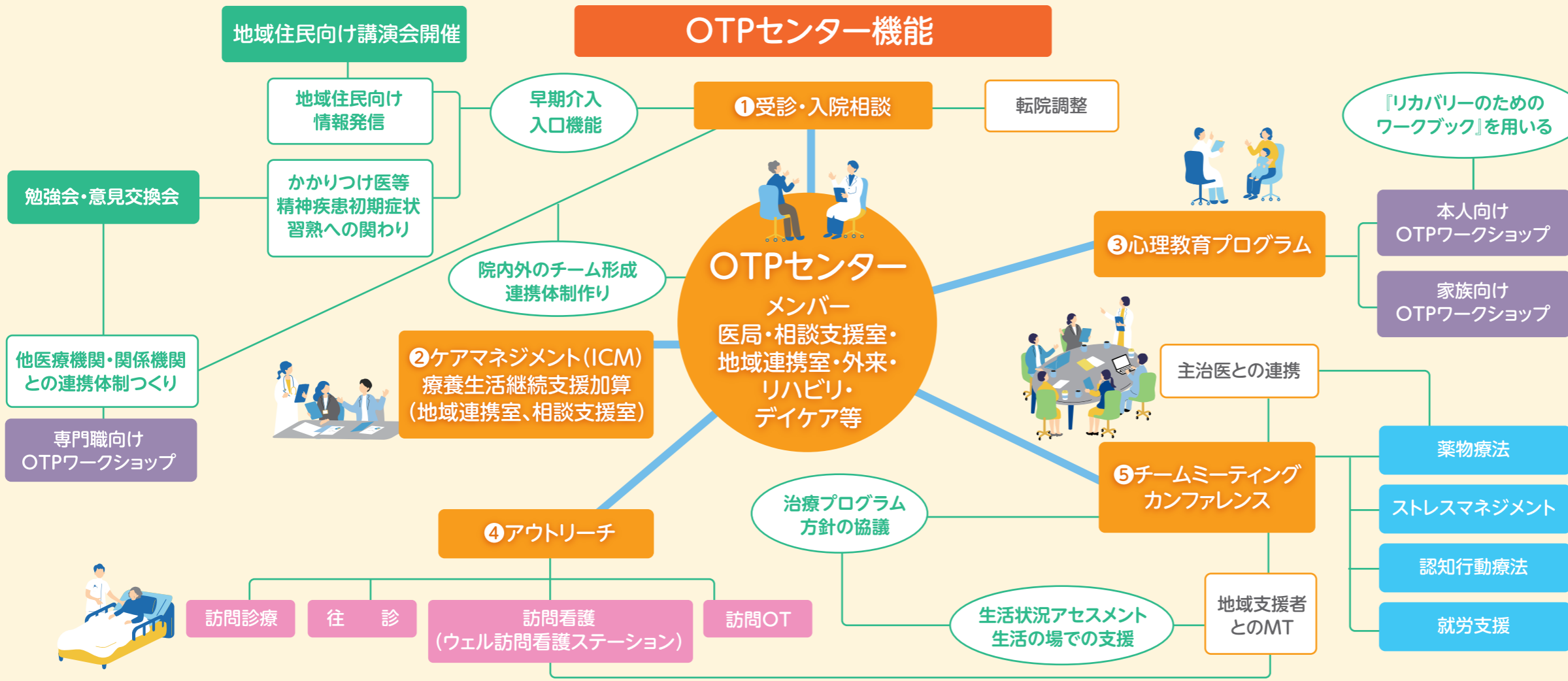
今回、当院において提供しているサービスや治療プログラムについてOTPのサービスマデル・治療モデル(図)に整理し、センターとして下記5つの機能に分類し、見える化を図りました。

- 1 受診・入院相談
- 2 ケアマネジメント
- 3 心理教育プログラム
- 4 アウトリーチ
- 5 チームミーティング・カンファレンス

早期介入を実現するため、初診の診療受け入れ体制を拡げること、メンタル不調に気付いたら、より早く治療や支援を受けられるように努め、受診後はその人の「したい生活」の実現に向け、多職種チームによる治療・支援が開始されます。チームミーティングを定例化し、OTPセンターミーティングでは特に外来通院患者様のカンファレンスを行い、ケアマネジメント、アウトリーチ支援等の導入、治療や支援の方向性について多職種で協議しています。まだ動き出したばかりですが、それぞれの職種の強みを活かし、患者様と一緒にその人のリカバリーを目指していきたいと思っております。

OTPセンター機能

OTPセンターメンバー 医局・相談支援室・地域連携室・外来・リハビリ・デイケア等



リカバリーのためのワークブック
回復を目指す精神科サポートガイド
中央法規 2018年6月30日発行
水野 雅文(編集)
藤井 千代(編集)
佐久間 啓(編集)
村上 雅昭(編集)





包括的ケアマネジメントを通して支援の質を向上させ、 パーソナルリカバリーと地域づくりを目指す

相談支援室 マネージャー 桑原 純一郎

「包括的ケアマネジメント」とは、地域で自立した生活を営むために、さまざまな社会資源の間に立つて医療・福祉・生活支援など多岐にわたるサービスを一体的に結びつけて調整を図り、包括的かつ継続的なサービス提供を可能にする援助方法で、多職種によるアセスメントとプランニング、介入を包括的集中的に行うケースマネジメントを意味します。

精神保健福祉の現場においては、急性期から地域生活への移行、地域定着に至るまで、継続的な支援が求められており、当院でも精神保健福祉士を中心に、本人の意思を尊重しながら多職種が連携して、個別支援計画を立案し、生活上の課題や希望に対する具体的な支援を提供しています。

包括的且つ継続的な関わりを通して、就労支援や住宅確保、金銭管理、対人関係のサポートなど、生活全体を見据えた支援を行いながら、本人のエンパワメントや自己決定を促進します。また、制度や地域資源の活用を通じて自立支援と社会参加を促し、再発予防や社会的孤立の防止にも寄与します。

個々に対するケアマネジメント実践の積み重ねこそが、顔の見える多機関多職種連携を強化させ、地域における支援力が向上します。それが、個々の実践力や支援の質向上につながります。

当OTPセンターが目指す「地域共生社会の実現」においても、我が国が目指す「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」において、も基盤となる最重要項目と言えます。

包括的ケアマネジメントによる連携構築のイメージ



早期介入、入口機能の充実に向けて

地域支援包括チーム リーダー 地域連携室 シニアマネージャー 安西 里実

地域連携室では主に初診の患者様の受診相談、他機関や他医療機関からの入院等の相談に対応しています。子どもから高齢者まで様々な相談が寄せられています。

早期介入（早期発見、早期支援）のためにも、新患の診療枠を増やし受診しやすい体制を整えました。気軽に受診できる病院になることで、精神病末治療期間（DUP）の短縮、治療開始を早期に行うことで精神症状の悪化を防ぎ、回復を目指していくことができると考えます。また、地域の精神科クリニックとの連携、総合病院や一般科かかりつけ医の先生方が相談しやすい体制をつくることも重要となり、地域の医療機関や関係機関と顔の見える関係作りを継続して推進していきたいと思えます。

日本のDUPが長期化する背景には自分が病気であることに気付にくい特徴や精神疾患に対するステイグマの存在が否定できないと言われています。地域住民の皆さんが精神疾患に対する正しい理解をもち、偏見の低減につながる取り組みはとても重要だと考えます。当院では地域共生包括チームが中心となり、地域公民館での講演会活動や学校における障害理解の取り組みを行っています。また地域連携室では「心のサポート」指導者養成研修を修了し、今後、行政と連携し、地域住民向けの研修を開催するなど積極的に社会への働きかけをしていきたいと考えています。

地域と共に築く、精神科訪問診療の新たな形

地域診療部長 喜田 恒

あさかホスピタルでは、長年にわたり統合型地域精神科治療プログラム（OTP）の理念のもと、地域に根ざした包括的な医療体制の構築に取り組みできました。現在、その取り組みの一環として「訪問診療・往診」の体制整備を本格的に進めています。

超高齢社会の進展もあり、通院が困難な精神疾患を抱える方々が増加しています。県中・県南エリアに広がる診療圏を持つ当院としては、こうしたニーズに応えるため、精神科医療の重心の一部を「病院から地域へ」と移行し、住み慣れた場所ですらなく暮らし続けることを支える体制づくりが不可欠であると考えています。

この訪問診療の取り組みでは、医師、看護師、心理師、作業療法士、精神保健福祉士など、多職種が密接に連携し、患者さま一人ひとりの心身の状態や生活背景に応じた、オーダーメイドの支援を提供します。また、ICTやオンライン診療の活用により、距離や天候などの制約に左右されず、継続的なケアを実現できる体制を整えてまいります。

地域の中で「その人らしさ」を大切にしたい医療を、より確かなものとするために……。私たちは、今後とも地域の皆さまと共に歩み、信頼される訪問診療の実現に努めてまいります。

「最善」のデイケア心理教育プログラムを提供いたします

デイケアセンター マネージャー 中村 亮

あさかホスピタルデイケアではOTPに基づき各疾患・年代に応じた様々な心理教育を用意し、提供しています。

もともとベーシックなもので統合失調症の疾患教育に始まり、コミュニケーション力の向上を目指すSST（社会生活スキルトレーニング）、就労へのスキル獲得を目指した就労心理教育プログラムなど多岐にわたります。

最近では発達障害の利用者の方の増加が見られるため、発達障害者向けの疾患教育や児童向けSST・CBT（認知行動療法）を始めるなど、今のデイケアの状況にあった心理教育を提供するよう務めています。利用者様は担当スタッフと相談しながら必要な心理教育を検討・選択し参加して、知識と技術を獲得しており「自己理解が深まった」「対処法が知れて良かった」「自分だけではないと知れて安心した」と活き活きとした声が日々聞かれています。

OTPの「Optimal」は「最善」を意味し、常に最新の知見を取り入れながら、最善の支援を提供し続けることが求められています。その為、私達支援者は提供する心理教育が硬直化しないよう日々情報収集や学びを続け、どの疾患の方に対しても最善の治療になる様励み続けたいと考えております。

これからも様々な心理教育を提供し、利用者様一人ひとりのリカバリーに繋がる様にとめてまいります。



慶應義塾大学医学部
精神・神経科学教室 教授
内田 裕之先生



あさかホスピタルグループ特別講演会 Webライブセミナー

令和7年3月21日、慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 教授 内田裕之先生をお招きして「きのこが開く心の扉―シロシビン療法と精神医学の未来」と題し講演をいただきました。内田先生は、近年注目を集めているシロシビンを含む精神展開剤(サイケデリックドラッグ)の科学的背景や治療効果について、最新の研究結果をもとに詳しく解説してくださいました。シロシビンが脳の神経回路にどのような変化をもたらし、従来の治療法を超える可能性を秘めているのか、そのメカニズムに触れながら具体的な事例も紹介されました。

また、精神医学の未来におけるシロシビン療法の役割についても言及があり、「精神の再生」を目指した治療法として、今後どのように臨床の現場へ応用されるか、多くの示唆をいただきました。参加者からは、「新たな治療の可能性に希望が持てた」「精神医療の最前線に触れた」といった声が寄せられ、大変有意義な時間となりました。

令和7年5月9日、高齢領域に携わるハビリ専門職、看護職、介護職等を対象に「認知症のある方へのフィジカルトレーニングとその効果」と題して石川県立こころの病院 認知症疾患医療センター 副所長 村井千賀先生をお招きして老年期包括支援に関する研修会を開催しました。講義では認知症のある方に対するBRSD予防及び生活機能を維持するための視点について、地域移行支援の退院に向けての調整では、注意や実行機能などの認知機能及び歩行能力の維持・改善を図る作業療法が有効であることを講義されました。実技では、石川県立こころの病院の認知症治療病棟にて実際に行われている廃用性症候群の予防を目的とした運動プログラム6分34Medsを体験させていただき、プログラム構成のヒントとなる有意義な時間となりました。

老年期包括支援に関する研修会



石川県立こころの病院
認知症疾患医療センター
副所長
村井 千賀先生



令和7年度あさかホスピタルグループ 合同入社式・昇格等辞令交付式&新職員交流会

- ◎あさかホスピタル…23名
- ◎安積福祉会…5名
- ◎安積愛育園…9名
- ◎アイ・キャン…2名
- ◎アサカサービスセンター…4名
- ◎新卒…21名 ◎キャリア…22名

令和7年4月1日、あさかホスピタルグループ新入職員の合同入社式と新院長の就任式が執り行われました。今年も多様な職種43名が新たな仲間に加わり、会場には希望に満ちた表情があふれていました。新職員交流会では、水野新院長より就任の挨拶があり、地域医療のさらなる発展と患者さまに寄り添う医療の提供に向けた決意が述べられました。和やかな雰囲気の中、交流が深まりました。グループ職員一同力を合わせて地域医療の充実に努めてまいります。

地域における 訪問看護の役割

ウェル訪問看護ステーション
マネージャー 丹野 美智子



社会や暮らしの変化が進む中、私たちは時代の変化に柔軟に対応し「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える」という看護ビジョンのもと、医療と生活の両側面の視点を持つことが求められています。精神科看護においても地域看護として訪問看護の有効性、重要性が示されており、当院ウェル訪問看護ステーションの利用者様の数も急増しています。

地域では複合的課題を抱えている世帯も多く、包括的支援が必要なケースや、未受診・受診中断により医療が届かないケースも見られます。地域看護として精神科訪問看護が担う役割は極めて大きいと感じています。利用者様が地域で安心して自分らしい暮らしができるよう、私たちは専門性を発揮し、医療、福祉、介護と生活をつなぎ協働していくことが重要です。そのため、当院では多職種連携の強化に取り組んでいます。児童から高齢者まで、さまざまな疾患や困難ケース、家族支援等、多様なケースにも早期対応し必要な医療を届けるためには、他機関との連携も必要不可欠です。訪問看護だけでは解決が難しい課題については、OT/PTセンターでタイムリーに情報共有し、多角的なアセスメントを行うことで、新たな看護展開を導き出し、他機関との連携も円滑に進むようになりました。

今後も、精神障害にも対応できる地域包括ケアシステムの構築とともに、利用者様の多様なニーズに対応できるよう、訪問看護のエリアを可能な限り拡充し、最善かつ質の高い看護の提供に努めてまいります。

こんな時にご相談ください

- 病気の不安がある
- 生活リズムが崩れてしまっている
- 身辺に相応の手がない
- 車の数忘れや間違いがあって不安がある
- ご家族が本人への接し方について悩んでいる
- 退院後の生活に不安がある

Wel訪問看護ステーション
TEL 024-946-0582 FAX 024-946-0591

あさかホスピタル
院内マップ

Wel訪問看護ステーションでは、地域の医療・介護・福祉と連携しながら、みなさんの暮らしを支え、安心して過ごせるお手伝いをします。

Wel訪問看護ステーションの役割

- 幅広い年齢層の方々に、こころのケアを提供します。
- どなたでも安心して看護サービスが利用できる体制です。
- オーダーメイドの看護サービスを実施します。
- 一人ひとりに担当の訪問看護員が付きまします。
- ステーションの訪問看護員全員で、皆さんの暮らしを支えます。
- 医療や介護、福祉などの専門職と連携しながら実施します。
- 緊急時対応できる体制をとっています。

訪問看護サービスご利用の流れ

具体的な支援内容

- ◎ 医師的業務・看護
- ◎ リハビリテーション
- ◎ 日常生活の支援
- ◎ 車椅子・歩行器具
- ◎ 認知症ケア
- ◎ 介護保険申請
- ◎ 生活支援
- ◎ 車椅子・歩行器具
- ◎ 認知症ケア
- ◎ 介護保険申請
- ◎ 生活支援

あさかホスピタルグループ
24時間 医師的支援で
皆さんをサポートいたします

Wel訪問看護ステーション

おうちでうけられる、
こころのケアが、
ここにあります。